

メサレ、伏見豊後橋角倉屋敷ニテ御上船、暫ク御輿ニメサレ、彈正町ヨリ御歩行、
〔都紀行〕十四日、○文久四年正月夕邊より雨降出しが、君浪花備前島より御船に召させられて淀川を
曳登られ、未の刻過伏見豊後橋より陸に上らせ給ふて、伏見奉行の館へいらせ給ふ、

〔伊呂波字類抄〕國字郡宇治橋

〔拾芥抄〕下本大橋宇治

〔和漢名數〕地理山城國大橋五略○中 宇治橋

〔山州名跡志〕字十五宇治郡 宇治橋 在同所、宇治境地非墨アリ、橋自丑寅至未申、長八十三間五尺五寸、古

へ掛ル所ハ、今ノ橋ノ上二町許ニアリ、此橋東爪ハ宇治郡、西ハ久世郡也、上古ニハ以舟爲渡、孝

徳天皇ノ御宇、大化二年ニ道昭和尙之ヲ造レリ、昭傳載一、釋書一

〔山城名勝志〕字十七宇治郡 橋略○中 土人云、昔宇治川流出巨椽、故古橋亦在于西云々、

〔京羽二重名橋〕三大橋 宇治橋 宇治川ニ有、長サ五十餘丈、

〔北邊隨筆〕四宇治橋

奇遊談といふものに、明和七年五月の比、早して井などもかれたりしに、よど川も舟かよひがた
くなり、宇治よりの運送もたえければ、土人相議して宇治川の上島下島兩村の前を堀りけるに、
二三尺ばかり底に大石を敷きならべてありければ、そこはさし置きて又一二丈ばかりかたへ
を掘たりけるに、なほ同じごと大石を敷きならべたりしかば、ちから及ばずしてやみぬ、いかな
る世にかゝる敷石はせしにかとあやしみあへりとみえたり、予按するに、今の豊後橋はもはら
大和にかよふ爲なれど、近き世にかけたる橋にて、むかしは宇治橋よりやまとへはかよひしな
り、まかるに今の宇治橋は、東方により過ぎて、大和へのかよひにはいと不便なれば、古は必川下
にこそありけめと、かねておもひ置きつるに、此奇遊談をみて、かの敷石は、いにしへの宇治橋の